

## コロナ禍の中で気づいた小さな支えあいエピソード【一覧】

数か月前までは、人と会い、おしゃべりし、交流することが当たり前の生活としていました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、私たちのこれまでであった普通の暮らしができなくなりました。

政府の緊急事態宣言により、「Stay Home」人との接触を減らし自宅で過ごすことが多くなり、緊急事態宣言解除後も、感染防止対策として政府からは「新しい生活様式」に切り替えることを求められています。

今だからこそ気づく、「普通の暮らしの幸せ」。

支えあいは、人が集まらなくても、おしゃべりできなくても、普通の暮らしの、日常にあるもの、と改めて感じる日々です。そのようなエピソードを、地域の皆さまとお話しする中で耳にするようになりました。

今後、ほっこりするエピソードを「小さな支えあいエピソード」として掲載していきます。

以下、いままでに頂戴したエピソードをご紹介します。

## 元気を「こうかん」

ある日、見守り協力員の石岡さんが、「ちょっと自慢みたいだけれど」と柏木ボランティアコーナーに1通の封書を持って来られました。封筒の中には、カラフルな文字で大きく『石岡さんへ』と書かれたカードが入っていました。

話の始まりは令和元年11月、淀橋けやきばし公園で開催された『柏木・角筈わいわいマルシェ』にさかのぼります。このマルシェは、プレイパーク※1団体と柏木・角筈社協部会※2の共催により、多世代の居場所づくりをテーマに、町会や角筈カフェなど地域の方々のご協力により開催されました。マルシェに訪れた石岡さんは、そこで西新宿小学校のスクールコーディネーターと出会い、小学校でボランティア活動をするようになりました。子どもたちと一緒に『まち歩き探検』をしたり、『昔遊び』の体験授業でこま回しなどを教えたり、世代間の交流も生まれていた矢先、新型コロナウイルスの影響で突然休止となってしまいました…。そんなある日、さびしい思いをしていた石岡さんのもとに冒頭で紹介した封書が届きました。それは、『まち歩き探検』を一緒にした子どもたちからのお礼のメッセージでした。

石岡さんは言います。「ボランティアは違う世代間で交流できるのがいいですね。ボランティアは楽しくやりたい。楽しくなければやらないほうがよい。お互いに元気をこうかんできるのがボランティアなのですよね！」石岡さんの言葉を聞いて、「こうかん・交換・交感・交歓」いろいろな「こうかん」を思い起こしました。一日も早く、感染症を気にせず元気を「こうかん」できる日が来ることを期待したいです。



- ※1 子どもが思いきり外で遊ぶことができるように、地域の大人達が見守り、支える子どもの遊び場。
- ※2 新宿社協の事業を通じて、地域の解決すべき課題について協議する会議体。

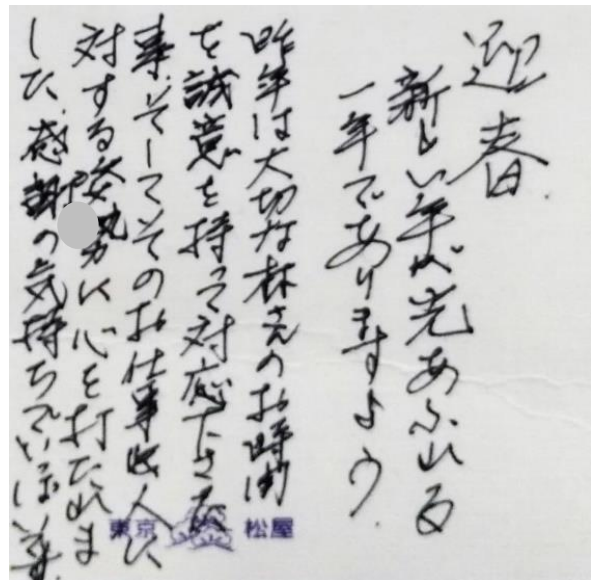
相談対応させていただいた A さんから、社協の職員宛に御礼のはがきが届きました。

「昨年は大切な〇〇さん（職員名）のお時間を、誠意を持って対応下さった事、そしてそのお仕事や人に対する姿勢に心を打たれました。感謝の気持ちでいっぱいです。」

A さんが作成した貼り絵は、初春を感じる内容とともに、心が温まるものでした。

毎日、さまざまな相談支援をする中で、その方にとってよりよいお手伝いのできたのか、と自問自答する日々です。

相談者の方に思いが通じたと感じる時、「この仕事をしていてよかったあ」と思う瞬間です。



## 花壇づくりを通じて地域交流をしています（都営百人町3丁目アパート2号棟）

都営百人町3丁目アパート2号棟には、自治会の有志による「中庭部」があります。

中庭部は、2号棟の広い中庭や、隣の百人町高齢者在宅サービスセンターの花壇づくりを行っています。きっかけとなったのは、アパートの住民を送迎するデイサービスの職員さんから、花や土に触れることは認知症の方にも良い影響を与えるという話を聞いたことでした。

2号棟の隣にある百人町高齢者在宅サービスセンター通用口の、スロープ横にある花壇のマリーゴールドやハイビスカスの植え付けは、中庭部所属のバングラディッシュ人のご夫婦が担当しました。2号棟の広い中庭は、次回東京都から花苗が配布されるタイミングに合わせ、計画的に手入れを始めることになりました。

中庭部ができて8か月、メンバーは4名になりました。花壇づくりがご縁を結び、地域交流の場所となっています。まずは広い中庭の手入れを中心に、2年ほどかけて庭の形を整えていく予定とのことです。



百人町高齢者在宅サービスセンター  
スロープ横の花壇



「こちらは2号棟会（中庭部）が管理しております」



バングラディッシュ人のご夫婦が植え付けた  
マリーゴールド



地域活動をされている方から、下記投稿をいただきましたので、ご紹介します。

### 『ありがとう』の言葉から得られること

私が経験した、仕事へ向かう途中の出来事です。

小雨が降る中、ある大規模マンション脇の緑道を歩いていると、一人の高齢のご婦人に出会いました。傘もささずに空を見ながら立っているので様子がおかしいと思いました。

その時、ご婦人が、私の方を見たように感じたので、近づいて声を掛けました。するとマンションの入口の方を指さしました。

歩いて行くには支えが必要と感じたので、軽く支えながら一緒に歩きました。

部屋の前まで付き添った方が良いか迷っていると、「ここで結構です。ありがとう。」と言ってくれたので、後は自力で帰れると思別れました。

感謝されて、私も元気をもらえました。



～想いを届けます～

地域見守り協力員事業を利用している方から、つまようじ入れの折り紙作品をいただきました。たくさん寄贈いただいたので、区内の各ボランティアコーナーで、来所の方にお分けしていました。

シャツの形をした折り紙作品は色柄が豊富で、来所の皆さんはとても喜んで持ち帰られました。後日、「お礼に」と、地域の方がボランティアコーナーに絵手紙を届けてくださいました。地域の方の想いをつなぐお手伝いことができました。

新宿社協は、「新しい日常」でなかなか外出できない高齢者の皆さんへ、「コロナに負けないで」「お元気でお過ごしください」など、ボランティアから寄せられた想いを届ける【おたよりボランティア】を実施中です。おたよりは、新宿社協のホームページや各ボランティアコーナーの展示でご覧になれます。



爪楊枝入れの折り紙作品



爪楊枝入れの折り紙作品をお持ちになった方が、お礼にと描いた絵手紙

～ご近所の絆～

ボランティア活動者の方から、「近所の一人暮らしの方が入院したと聞いたが、その後の様子がわからないので心配している」と社協へ相談がありました。

社協から関係機関へ状況を確認したところ、現在も入院していることがわかりましたが、そのやり取りの中で、ご近所の方が心配されている旨を伝えました。するとその後、ご本人が病院を移る際、一度自宅へ帰ることになったとご家族からご近所の方へ連絡を入れてくださったそうです。当日は、ご近所で親しくしていた数名が本人宅へ集まり、本人と久しぶりにお話することができたとのこと。相談してよかった、ありがとうとご報告をいただきました。

再会の際のみなさまの笑顔を思い浮かべて、私たち職員もとてもうれしい気持ちになりました。

※新宿区社会福祉協議会では、地域の気になる方・心配な方についてのご相談もお受けしています。関係機関などと連携して対応しておりますので、何かありましたら情報をお寄せください。



## 介護用食事エプロンの寄附 ～企業さんから地域の施設へ～

自宅のできるボランティア活動のひとつに、「介護用食事エプロン作り」があります。作成したエプロンを社協にご寄附いただくと、地域の高齢者や障害者施設等にお渡ししています。

このたび、明治安田生命保険相互会社の社員のみなさんが、手作りした介護用エプロンを、地域の方にぜひ使っていただきたいと、社協にご寄附くださいました。今年は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、施設でのボランティア活動ができないため、地域の役に立てればと社内全体で、仕事の合間をぬって作成してくださったそうです。

ご寄附いただいたエプロンは、北新宿にある「せらび新宿」（高齢者グループホーム・有料老人ホーム）にお届けしました。施設では、新型コロナウイルス感染症予防のため、ボランティアの受け入れを中止し、利用者へのケアも、今まで以上に感染対策をしながら行うなど、大変厳しい状況のなかで運営しているそうです。今回の寄附をいただいたエプロンは、ポケットと首にかけるタスキが、いつも使っているエプロンより手が込んでいると、施設の方たちにも喜んでいただいているそうです。

新しい日常の中で、地域の方や施設・団体が多様な形でつながることの大切さを感じることができました。

社内でエプロン制作を行う様子。



施設では、さっそくエプロンを使ってくださっています。



## 「懐かしい場所」

一階のハンバーガー屋さんが目印のマンションにお住まいの女性。通販で購入した座椅子の組み立てが難しくて、とのご連絡があり、ボランティアさんに活動を相談しました。

ボランティアさんによると、そのマンションの一階は、20年ほど前はピザ屋さん。もう少しお若かったそのころのボランティアさん、そのピザ屋さんでアルバイトをしていたそうです。なんという偶然でしょう。

活動日、利用者さんとそのお話をすると、自分はちょうど20年ほど前に引っ越してきたのよ、とのこと。人生とは面白いですねと、お二人方が思いをはせる日となりました。

もちろん座椅子は立派に組みあがり、また何かあったら呼んでくださいと、ボランティアさんからお声がけをいただきました。

社協のコーディネートは、地域の繋がりづくりですが、意図せずつながることもあり、ご縁とは不思議なものだと思うことばかりです。



## 「手作りのエプロン」

「私もエプロン作ってみたいの。型紙がほしい！」

大久保地区の民生委員・児童委員をされている女性。もともとお裁縫が得意で、職員にも手作りの着物地の巾着などをプレゼントしてくださるほどでした。

新しい日常の中でできるボランティア活動として、新宿社協では[「おうちでできるボランティア」のメニュー](#)のメニューをご紹介します。この方は最近ミシンを購入したこともあり、手作りの「介護が必要な方向けの食食用エプロン作り」にぜひ挑戦してみたいとのこと。希望者には型紙をお渡ししており、この方にもすぐにお届けしました。

次にお会いした際、「作ったわよ！」とお声かけがあり、思いもかけずたくさん、色とりどりの手作りタオル地のエプロンと可愛い布バッグをお預かりしました。

カラフルなエプロンを見ていると、受け取った方の笑顔が見えるようです。このエプロンは介護が必要な地域の方へお渡しいたします。外出が難しい日々が続く中で、「おうちでできるボランティア」にご参加いただき、地域の方を思っていたこと、心が温かくなりました。ありがとうございます。



## 「ありがたい気持ちを、美味しいうどんに込めて」

クラウドファンディングで医療・福祉従事者に栄養とエールのギフトが贈られました

新型コロナウイルスの影響により、今年の春から社会のあらゆる所で変化と忍耐が必要とされる状況が続いています。終息の目途はいまだつきませんが、この間、最前線で戦い続けてくださっている医療や介護の従事者がいます。この方たちを応援するため、立ち上がったうどん屋さんが新宿にありました。「讃岐のおうどん花は咲く 新宿戸山店」を営む、高木さんご夫妻です。

高木さんは2年前にこのお店を始めたころから、「地域と社会のエネルギー源のひとつとなれる事」をめざしていました。お店は大久保通り沿いのビルの一階にあり、通りの向かいには「国立国際医療研究センター」、日本の新型コロナウイルス感染症対策の最前線を担っている医療機関があります。

高木さんによると、うどん屋さんによく足を運んでくださる方にも、通りがかりに挨拶をする方にも、国立国際医療研究センターに勤務されている医師・看護師などの医療スタッフが多くいました。新型コロナウイルスの影響が深刻化していくにつれ、その方々の疲労の色が濃くなっていき、以前は通りで会うと挨拶を交わしていた人たちが、人目を避けるように肩を小さくして足早に通り過ぎていくこともあったといいます。医療スタッフのご飯はコンビニ食が多く、家族へ影響が出ることも考慮しホテルや車中泊をする医療スタッフも多くいるとも聞きました。

「病院で働く人はどんな気持ちで職場にむかっているんだろう、どんな想いで患者さんと向き合っているんだろう、どんな思いで家に帰っているんだろう。明日にどんな不安を抱えどんな希望を目指して戦っているんだろう。」

(クラウドファンディング・**CAMPFIRE** プロジェクトページより)

高木さんは考えました。「自分にできることは、うどんを作ること。」

少しでも最前線で働く方々に元気を贈りたい。命を懸けて戦っている人たちのエネルギー源になりたい。そのために、病院のすぐ近くだからこそできることとして、無償で食事を提供したい。

ただし、飲食店も軒並み新型コロナウイルスの影響を受け厳しい時節です。そこで、クラウドファンディングに挑戦することにしました。クラウドファンディングは一般的に、出資額に応じて出資者にリターンがありますが、このプロジェクトのリターンは、「コロナと戦う方々への支援提供」です。支援対象は、医療スタッフをはじめとする国立国際医療センターの関係者、またコロナの見えない脅威に直面しながら社会インフラとして最前線で働き続ける方々としました。目標資金額を 150 万円と定め、5月7日にプロジェクトを開始しました。

「個人では限界がある活動も、支援の輪が広がればもっと沢山の力になります。今この瞬間も、身を呈して働く彼らに元気を届ける、仲間に加わってください。」



「讃岐のおうどん 花は咲く新宿戸山店」

私は新宿の大きな病院の近隣で「讃岐のおうどん花は咲く 新宿戸山店」を営む 高木 努と申します。



普段はうどんのコンテスト（うどん天下決定戦2017）で全国で2番目、東日本で1番うまい！と評価いただいた【極上の肉うどん（A5和牛の肉うどん）】を看板メニューに掲げ、

「足を運んでくれたお客様がもっと笑顔に、もっと健康になっていただく」を合言葉に、地域と社会のエネルギー源のひとつになれる事をめざし営業しています。



Hanawasaku\_Tom

東京都

初めてのプロジェクトです

「讃岐のおうどん花は咲く 新宿戸山店」を営む 高木 努と申します。うどんのコンテスト（うどん天下決定戦2017）で全国で2番目、東日本で1番うまい！と評価いただいた【極上の肉 ちっと見る

認証していません

www.facebook.com/tsutomu.takagi.127

メッセージで意見や質問を送る

リターン

1,500円

1500円分のお食事を支援として、医療最前線に贈れます。集まった額に応じて、プロジェクト終了を待たずに段階的に支援を拡大していきます。また、状況は常にSNS上でアップデートし ちっと見る

支援者：29人

お届け予定：2020年05月

その結果、114 人の方が出資者となり、6月6日に 86 万 8500 円を集めプロジェクトは終了、またクラウドファンディングを通さず直接振り込みをされた方も多く、合わせておおよそ目標金額の 150 万ほどに達しました。その資金は、まず牛すじうどん、牛すじ弁当、持ち帰り用のお惣菜セットの3種類の形で国立国際医療研究センターへ届けられました。

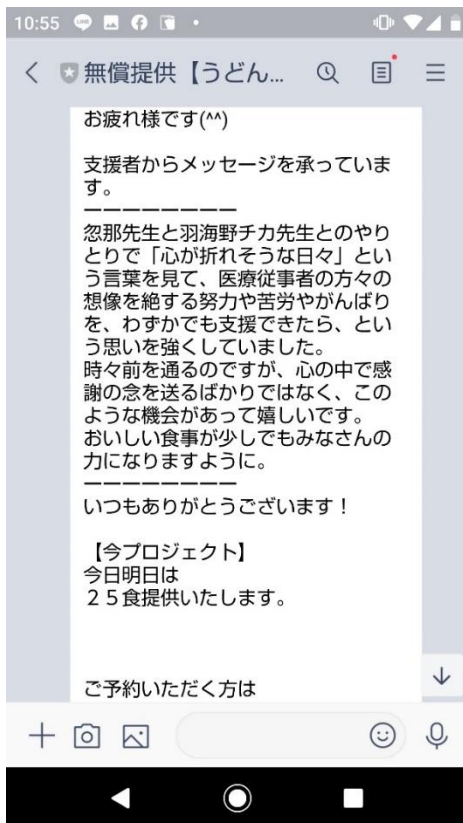


【国立国際医療研究センターより感謝のメッセージ】



【食の無料支援プロジェクト・周知ポスター】

合わせて医療従事者へのメッセージ配信を行い、プロジェクト支援者の方々からのエールの声を伝えました。このメッセージを読んで、多くの医療従事者の方が「嬉しかった」「明日も頑張れる」と喜ばれたそうです。



【プロジェクト支援者からのエールを、医療従事者へメッセージ配信（左画像）】

その後メニューを増やししながら、次にお店の隣にある高齢者施設「地域密着型複合施設マザアス新宿」にも無償の食事が届けられました。マザアス新宿では高リスクの利用者さんを新型コロナウイルス感染から守るため、感染対策を徹底し、施設の運営方法にも大きな変更を加えるなどスタッフが必死で対応にあたっていました。高木さんからの支援の申し出にスタッフは大喜び、その心意気に感激したマザアス新宿の高岡施設長より、お店に感謝状が送られました。

【高木さんとマザアス新宿・高岡施設長（右画像）】

また、高木さんの熱い思いに答えるかのように、このプロジェクトにはお米、近隣のカフェからは食事と一緒に配布するためにとクッキー、使い捨て手袋、マスクやアルコール、物資だけではなく情報提供やプロジェクト情報の拡散など、資金面以外にも思いもかけず多くの支援が寄せられました。そして最終的に、医療・福祉従事者に、1,233食を無償で届けることができました。

このプロジェクトは、私たちがそれぞれに「できること」を集めることで、大きな挑戦を可能にする力となることを教えてくれました。高木さんのお店には、地域の皆さんがいろいろな情報を掲示できる「地域の掲示板」があり、これからも地域と社会のエネルギー源の一つとして活動されます。

新宿社協も地域の支え合い活動の拠点として、地域の皆さんとともに歩んでいきます。

【リンク】

1 クラウドファンディング プラットフォーム「CAMPFIRE」

【コロナ最前線で戦う医療従事者に、元気が出るご飯を無償で提供！】

<https://camp-fire.jp/projects/258996/activities/144489>

2 マザアス新宿 ブログ <https://blog.canpan.info/moth/archive/1131>

3 高木 努氏 FACEBOOK <https://www.facebook.com/tsutomu.takagi.127>

## ～今できることでボランティア～

ある日、高齢者施設で書道のレクリエーションの指導をしているボランティアさんが、落合第一ボランティアコーナーに、書道のお手本を持ってきてくださいました。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設でのボランティア活動は休止中です。

「皆さんが、自主的にお稽古をなさっていると知ったので、せめてお手本をお渡しすることでお手伝いしたくて」とのこと。

書道の指導のボランティアを開始して間もなく緊急事態宣言が発出され、ボランティア活動が休止となったのですが、それからは毎月、お手本を用意してくださいます。施設の利用者とは、はがきでお互いの近況を知らせ合っているとのことでした。会えない時間が絆を育んでいるのですね。

ボランティアさんはもちろん、ボランティア受入施設の利用者、職員みなさんも、変わらぬ笑顔でまた会える日を心待ちにしています。一日も早くその日がくることを願っています。



## ～見守り見守られ～

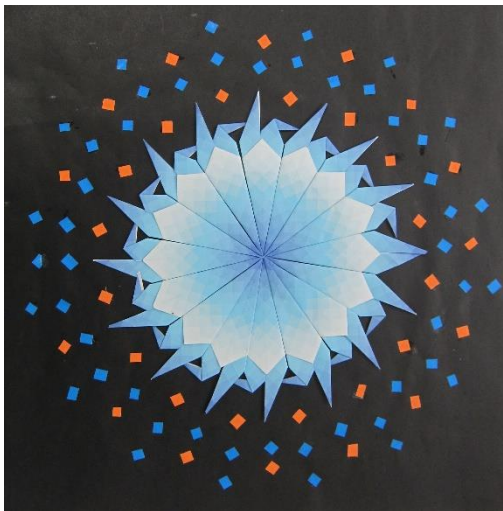
9月のある日、見守りに登録しているボランティアさんが、落合第一ボランティアコーナーに花火とお月見飾りの折り紙細工をお持ちくださいました。

この方は折紙を趣味とされており「今年は各地の花火大会が中止で寂しい夏だったので、地域のみなさんに折り紙の花火を楽しんでもらえたら」とお届けくださったとのこと。

「花火」は夏の夜空に広がる大輪が目に浮かぶ作品です。「月とうさぎ」は小さな月見だごの一つひとつが折り紙でできているかわいらしい作品です。落合第一ボランティアコーナーに展示していますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。落合第一ボランティアコーナーは、落合第一特別出張所内にあります。

このボランティアさんは、地域見守り協力員の活動もされています。利用者宅を訪問後、階段を降りて帰るボランティアさんを、利用者さんが階段を降りきるまで見送っているそうです。お互いに見守りあう様子が目に浮かびました。おふたりの絆を感じるエピソードをうかがえ、温かい気持ちになりました。

「花火」 ↓ 「月とウサギ」 →



四谷地域の地域見守り協力員事業の利用者さんから寄贈いただいた、折り紙の爪楊枝入れを、新宿区内のボランティアコーナー（笹筒町 VC、若松町 VC、大久保 VC、落合第一 VC、落合第二 VC、柏木 VC）、高田馬場事務所、東分室の窓口にて配布しています。

コロナの中大変な思いをしている方々への労いの気持ちが詰まった作品たちは、一つ一つ絵柄が違いとてもカラフルです。ご自身のお気に入りを探してみませんか?!お待ちしております!

※地域見守り協力員事業

75 歳以上のひとり暮らし、または75 歳以上のみの世帯の方、希望する方を対象に、地域の支えあい活動として、地域見守り協力員（ボランティア）が月2回程度訪問する活動です。



若松町 VC



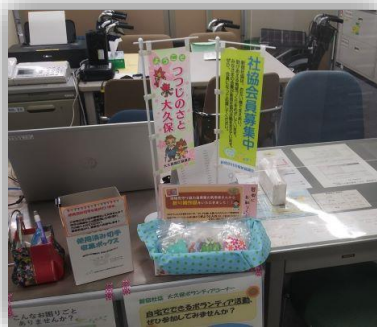
柏木 VC



笹筒町 VC



東分室



大久保 VC



落合第一 VC



落合第二 VC



カラフルな作品の中からお気に入りを探してみませんか?!  
お待ちしております!



高田馬場事務所



## 地域の方からの手作りマスクのご寄附

柏木地区にお住まいの方から、手作りマスクのご寄附がありました。

新型コロナウイルスの影響で家にいることが多くなり、裁縫の経験を生かして、マスク作りを始められたということでした。出来上がったマスクは、地域の方たちに使ってもらえたらというご希望があり、地域の方や施設とつながりのある社協にご寄附いただきました。

手作りマスクは、地域の施設にお譲りすることができ、とても喜ばれました。温かいお気持ちをいただきまして、ありがとうございました。



## 災害ボランティアを経験された地域の方からの寄附金

8月のある日、柏木ボランティアコーナーで10万円の寄附をいただきました。

この方は、昨年水害に遭われた方々のためのボランティア活動をした際、現地の社協に世話になったことから、社協をお知りになったそうです。そして、今回、社協が新型コロナウイルスの影響で多く申し込みがある緊急小口資金、総合支援資金特例貸付受付の窓口になっていることや、災害が起こった際の社協の役割について気にかけてくださっていました。その思いを、新宿社協への寄附金というかたちでお届けくださいました。この10万円は、国の特別定額給付金と  
のことです。

この方以外にも、特別定額給付金から寄附をしてくださる方が何人もいらっしゃいました。

ありがたい寄附金は、社協への力強いエールでもあり、背筋が伸びる思いがしました。

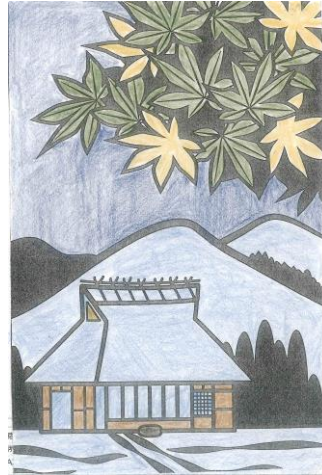
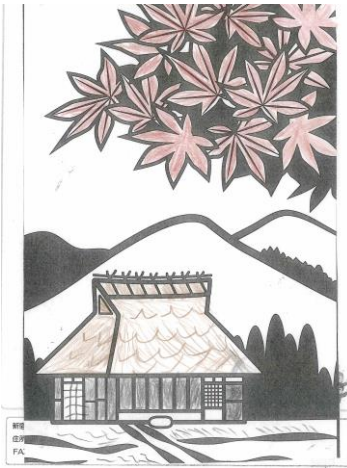
いただきましたご寄附は、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



～ベストリハ西落合～

西落合にあるデイサービス、ベストリハ西落合から、利用者さまがレクリエーションの一環として取り組んだ作品をいただきました。ほのぼのとした色合いに心がなごみます。人と人の距離をとることが必要な今だからこそ、とても嬉しい贈り物です。

素敵な作品を提供していただき、ありがとうございました。

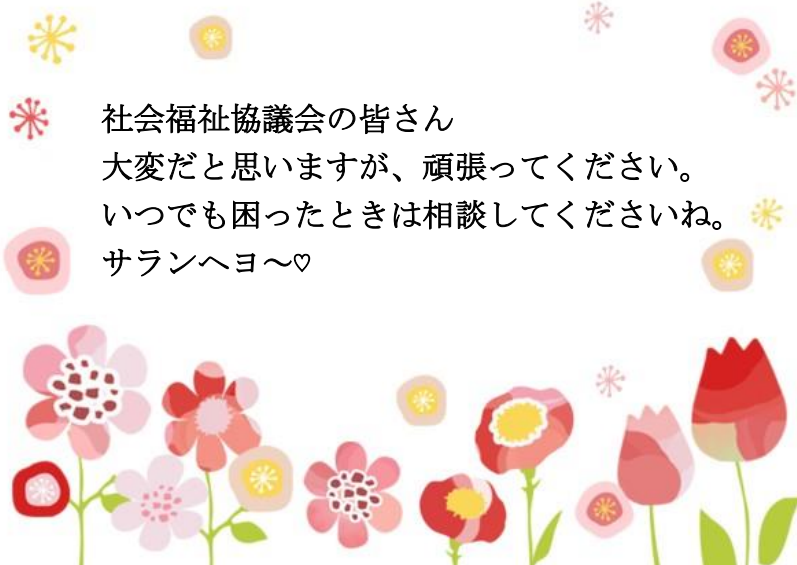


私たちが担当します。  
このご、お仲間が健康は大切で、安心して下さい。



お医者様 看護師様

アルコール消毒液を購入した店舗の皆さんより  
社協職員へメッセージとアルコール消毒液の寄付をいただきました。



＊ 社会福祉協議会の皆さん  
大変だと思いますが、頑張ってください。  
いつでも困ったときは相談してくださいね。  
サランヘヨ〜♡



コスメショップ蘭ちゃんの皆さん  
(株式会社 亜太)

協力員（※）が活動時に使用するアルコールスプレーを購入したことがきっかけで、社協の事務所に設置するアルコール消毒液のご寄付をしていただきました。アルコール消毒液が品薄で購入することが難しい時期だったのでとても助かりました。

※地域見守り協力員事業、ちょこっと・暮らしのサポート事業の協力員の方へ携帯用のアルコール消毒液を配布しております。

個人宅へ活動に行かれる際に、ご活用ください。

ご希望の方は、窓口でお渡しするので、お手数ですがお近くの窓口までご来所ください。

窓口	住所
新宿社協 高田馬場事務所	新宿区高田馬場 1-17-20
東分室	新宿区四谷三栄町 10-16
笹塚町ボランティアコーナー	新宿区笹塚町 15 笹塚町特別出張所内
若松町ボランティアコーナー	新宿区若松町 12-6 若松町特別出張所内
大久保ボランティアコーナー	新宿区大久保 2-12-7 大久保特別出張所内
落合第一ボランティアコーナー	新宿区下落合 4-6-7 落合第一特別出張所内
落合第二ボランティアコーナー	新宿区中落合 4-17-13 落合第二特別出張所内
柏木ボランティアコーナー	新宿区北新宿 2-3-7 柏木特別出張所内

### ～見守り協力員さんより～

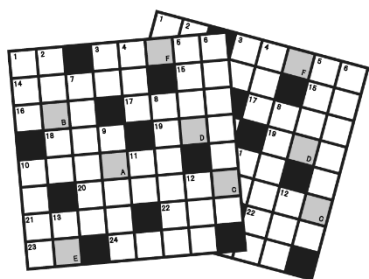
担当している見守り利用者さんで、クロスワードパズルが好きな方がいます。見守り訪問の度に、新聞のクロスワードパズルを切り抜いて持って行き、渡していました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために訪問を休止していた間（※注1）は、切り抜きを溜めておき、再開後に持って行くと利用者さんがとても喜んでくれました。

このようなご報告をボランティアの方からいただきました。

利用者さんに喜んでもらうために、協力員さんがおうちで新聞を切り抜いている姿を想像して、とても温かい気持ちになりました。

利用者さんも、心待ちにして訪問を待っていたようで、今までに築かれたお二人の絆を感じました。



### 【地域見守り協力員事業】

75歳以上のひとり暮らし、または75歳以上のみの世帯の方、希望する方を対象に、地域の支えあい活動として、地域見守り協力員（ボランティア）が月2回程度訪問する活動です。

※注1 緊急事態宣言発出中の4月～6月は、協力員による訪問を休止とし、職員から電話にて安否確認を行っていました。現在は感染予防対策をし、訪問を再開しています。

四谷地域の地域見守り協力員事業の利用者さんから、折り紙の爪楊枝入れを寄贈していただきました。夏らしいTシャツ型のカラフルな作品です。

コロナ禍のこのような時に少しでも癒しを届けられたら、という思いを込めて作成して下さった作品です。

寄贈いただいた作品を、7月に開催された「新しい生活様式に合わせたサロン・通いの場等の実践について考える」情報交換会の場で参加者にお渡しし、あわせてZoomで参加いただいた方々にも窓口でお渡しできることを紹介させていただきました。

参加者の皆さんは、カラフルな作品を手にしてとても喜んでいらっしゃいました。

折り紙をご寄贈いただいた利用者さん、素敵な作品をありがとうございました。

### ※[地域見守り協力員事業](#)

75歳以上のひとり暮らし、または75歳以上のみの世帯の方、希望する方を対象に、地域の支えあい活動として、地域見守り協力員（ボランティア）が月2回程度訪問する活動です。

◇お問合せ先

新宿区社会福祉協議会 東分室

新宿区四谷三栄町10番16号

TEL：03-3359-0051



夏らしく素敵ですね！

カラフルな作品の数々！

## 「人を助けることは、自分を助けること」

ボランティア活動の相談に来所した方。

中国の四川出身、日本語を学び、仕事のために来日されました。

活動の内容は問わないので、人のためにできることをしたいと希望。

ボランティア活動を始める際に、ボランティア活動への参加動機を伺っています。

「人を助けることは、自分を助けること」と。

コロナ禍の下ですが、少しずつボランティア活動を再開しています。「新しい生活様式」で、皆さんが安心して、人のため、自分のため、地域のために、活動いただけるよう、お手伝いさせていただきます。



四谷地区の見守り協力員事業の協力員の方が、マスクでお困りの方へと作ってくださった布マスク。4月下旬に社協に寄贈しようとして東分室にご来所いただいたそうですが、あいにくコロナウィルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言中で東分室は窓口を休止していました。しかし、東分室と隣り合っている四谷高齢者総合相談センターの皆さんが、写真①のように手作りマスクの配布に協力をしてくださったのです。

また、寄贈者の方へメッセージを！と、マスクを受取った方にメッセージカードの記入を呼びかけてくださいました。「お礼にと小さな子どもが書いたアンパンマンの絵」「入院中の母に使用させて下さい」「個性のある鮮やかなマスクですばらしい！」など、幅広い年代の方からのたくさんの感謝のメッセージであふれていました。

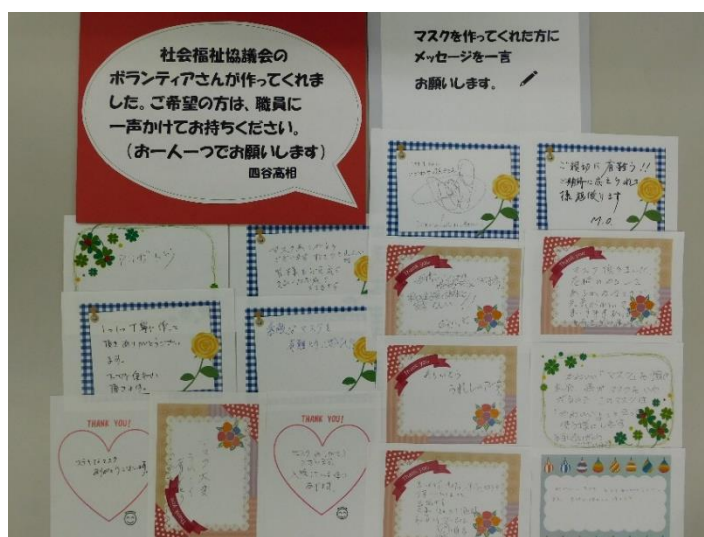
いただいたメッセージカードは社協から、寄贈者へお渡ししたいと思います。

マスクを寄贈していただいた協力員の方、想いをつないでいただいた四谷高齢者総合相談センターの皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

写真①



写真②





ボランティアさんからの報告。

「トイレトペーパーが欠品で足りなくなってしまう、困っている。家族にも相談したが、すぐには来てもらえない。」と、一人暮らしの高齢者の方を訪ねた（※）際に、話を聞きました。後日、トイレトペーパーを入手することができたので、ご自宅へお届けしたらとても喜んでいただけました。

ボランティアさんからの報告で、小さな支えあいを感じました。

いろいろな生活用品が欠品になり、不安な気持ちを受け止めていただけたこと、ご近所同士での支えあいとしてお手伝いいただけたこと、ありがとうございます。

### ※地域見守り協力員事業

75歳以上のひとり暮らし、または75歳以上のみの世帯の方、希望する方を対象に、地域の支えあい活動として、地域見守り協力員（ボランティア）が月2回程度訪問する活動です。



絵手紙が得意な協力員の方からイラストを提供していただきました。

### 【社協職員編】

ボランティアさんから届く報告書。

「コロナの中、大変でしょうが、お身体に気を付けて」との一筆箋。地域の方からの気遣いのお言葉に、嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいです。



### 【社協職員編】

「社協の皆さんへ 頑張りましょう！」と応援のお言葉とともに素敵なお花をいただきました。いい香りのする、ビタミンカラーのお花です。

